

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102988		
法人名	有限会社 アヴェニール		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	岐阜県岐阜市河渡5丁目60番地		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102988-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102988-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護職員が24時間在中しているため医療と切り離すことの出来ないインシュリン注射・透析通院・在宅酸素等を必要とする利用者様を積極的に受け入れている。また、ご家族・ご本人の希望に添える形でのターミナルケアにも積極的に取り組み職員全員で対応している。職員の離職が少なく開設当初からの人員が半数を占めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

看護師の資格を持つ職員が24時間365日常駐しており、医療的ケアの対応が可能なホームである。加えて、職員の入れ替わりが少ないこともあって、利用者や家族にとって、安心感が持てるホームとなっている。利用開始時に終末期の支援方針を伝え、ほとんどの利用者、家族がホームでの看取りを希望している。看護職員が常駐することから、医療行為が必要な利用者も入院せずに、最期までホームで暮らし続けるケースが多い。  
家族との信頼関係が構築されており、ホーム運営に協力的な家族が多い。コロナの感染状況に応じて、家族面会を中止したり制限付きで認めたりしているが、面会の不自由さに異議を唱える家族はいない。家族アンケートには、ホームに対する感謝と称賛の言葉が並んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを理解し、地域住民の方との交流の場に出掛ける等、この地で暮らし続けることを支援できるよう努めているが今年も昨年から引き続き地域住民との交流は出来ていない	「和気あいあい」のホーム理念が、コロナ禍によってホーム内だけの取組みとなっている。本来であれば、地域をも含めた「和気あいあい」であるが、現状ではそれは叶わない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年近隣の社福法人の行事に参加し交流を深めたり、散歩や買い物に出掛ける利用者様もいたため地域住民と挨拶を交わしたり、自治会行事への参加もしていたが、今年も昨年から引き続き出来なかった。	様々な地域との交流が行っていたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、すべてが中断している。利用者が楽しみにしていた地域の行事も、ほとんどが中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の代表が地元であるため地域の方々から様々な相談をされることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一昨年までは、外部評価への取り組み～結果報告を運営推進会議の場で行ってしたが、今年に入ってから運営推進会議が出来なかったため出来ず、今後再開ができた暁にはそうしていきたい。	市の方針に沿い、年間6回の運営推進会議はすべて書面開催となっている。ホームから運営状況を報告する書面を作成し、会議メンバーに送付している。地域包括支援センターからは、毎回返信がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前から相談事がある時には直接出向き市町村担当者と顔を合わせ相談にも乗ってもらっている。昨年からは電話やメールでのやり取りが多くなった。	市の担当者からも、市役所訪問の自粛を求めるメールが入る等、対面での話し合いはほとんどなくなっている。地域包括支援センターとは、強い連携体制を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針で日々ケアに取り組んでいる。しかし必要な場合は家族と話し合い適切な手続きを経て身体拘束を行う。その後は定期的なアセスメントを行い解除に向けた話し合いをしている。	職員全員で身体拘束適正化のための委員会を開き、身体拘束をしないケアを実践している。やむを得ず身体拘束を行う場合は、マニュアルに沿ってルール通り(家族の同意、記録の作成、介助に向けた検討等)に実施することとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部講師でカンファレンス時に「高齢者虐待防止法」の勉強会を開催し職員全員が理解を深め、注意しあえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は外部より講師を招き「権利擁護・成年後見制度」の勉強会を開催し職員全員が参加して理解し活用できるようにしていたが今年も開催できなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分に説明し理解していた。また法改正等で変更があった場合も都度説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを大切にし良い信頼関係が築けるよう努めている。意見・要望を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。	コロナの感染状況を確認しながら、家族面会を中止したり制限付きで認めたりしている。面会が不自由になっているが、家族アンケートでは不満の声は上がっていない。意見・要望は電話で聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回開催されるカンファレンスには必ず代表者・管理者が参加し職員からの意見を聞く機会を設けている。しかし把握しきれない可能性もあるため、年に一度の個人面談で収集できるよう努めている。	法人代表や管理者等が創業時から勤務し、チームワークの良いホーム運営が行われている。家族アンケートにも、「職員の入れ替わりが少なく安心」との声が寄せられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ほぼ毎日ホームに居て個々の職員の勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量を把握し希望の研修を受けられるよう努めている。また、ホーム内で勉強会を開催しケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前から代表者は他のホームの管理者等と交流を深めてきたが今年も出来ず、電話やメールでの交流のみとなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の希望を聞き、困っている事・不安に思っている事・要望を理解できるよう工夫し、本人が安心して生活出来るよう、また職員とのより良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事・要望を聞き、ホームとしてどのような対応が出来るのかをじっくり話し合い、何でも話が出来よう信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思い・状況を確認し信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側との意識を持たずお互いが共同しながら和やかで楽しく生活出来るよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が同じ思いで関わられるよう、面会時に近況の報告をし、また、家族からの要望・気づきを聞き、良い関係が保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開設以来、ご家族・友人・知人の面会時にはゆっくりと過ごしていただける雰囲気づくりに心がけてきたが今年も叶わず、ご家族のみの短時間面会となってしまった。	外部からのコロナウイルスの持ち込みを防止する目的で、家族以外のホーム訪問を断っている。電話や手紙で家族と連絡を取る利用者があり、手紙の場合には職員が宛名書きを手伝っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を職員が共有できるようにしており、心身の状態や気分に変化することがあるため注意深く見守るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで契約が終了しても、必要に応じて面会に出かけたりし場合によっては相談を受けることもある。以前には数か月後に再度入所に至った例もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく表情や行動からも意思を読み取れるよう努め、より理解を深める為に家族からも情報を得よう努めている。	テレビの料理番組に反応したり、新聞に折り込まれたスーパーのチラシをじっくり見つめていたり、職員は利用者の何気ないぐさや表情から、思いや意向を掴んでいる。意向の主体は食べ物が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等からいろいろな情報を集めアセスメントし本人の望む生活環境を理解し支援できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活のリズムを把握し、スタッフ間で情報を共有・連携し、利用者様の日常の過ごし方・心身の状態を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様主体の暮らしに反映したケアプランを立てている。プランの見直しは期間や身体状況に応じて作成している。また、毎月のカンファレンスで意見交換をしプランに反映出来る様に努めている。	短期3ヶ月、長期6ヶ月の目標を設定し、介護計画を作成している。医療的ケアの充実したホームであり、介護計画にも「傷病の治療」、「施薬」、「健康維持」、「栄養」、「食事」面での支援が記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には一日の様子を記入し特記事項はその日のうちにスタッフに伝わるよう連絡ノートに記入し、必ず目を通し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様たちが安心して暮らし続けられるよう自治会・民生委員などと情報交換してきたが、今年も出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用以前よりのかかりつけ医での医療が受けられるようにしている。通院が不可能になった場合でも近医に訪問診療をいただいている。	ほとんどの利用者がホーム協力医をかかりつけ医とし、月に2回の訪問診療を受けている。看護職員が24時間365日常駐することから、利用者、家族の安心感に繋がっている。通院付き添いも職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を24時間配置しているため、日常のかかわりの中でとらえた情報はすぐに看護職員に報告・相談ができる。訪問看護ステーションとの連携により日頃の健康管理を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法など情報を提供している。またホーム職員が定期的に見舞うようにし家族ともに連絡を取り合っている。協力医療機関での入院が多いため、病院職員との良い関係は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師とホーム職員が連携して安心して納得のできる最後を迎えられるよう取り組んでいる。	利用開始時に終末期の支援方針を伝え、ほとんどの利用者、家族がホームでの看取りを希望している。看護職員が常駐することから、医療行為が必要な利用者も入院せず、最期までホームで暮らしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・緊急時対応マニュアルを整備している。また看護職員が24時間配置となっているため対応できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路・消火器の使い方などの確認は定期的に行っている。自然災害時等は自治会・消防団・近隣の大規模施設など協力関係もできている。またセコムによるホームセキュリティも設置している。	ハザードマップ上では水害警戒区域に指定されている。水害を想定した防災訓練では、ホーム2階への垂直避難の訓練を行っている。オール電化のため、停電対策として発電機を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを大切にケアができるよう声掛けの仕方・声の大きさ・場面を見極め対応が出来る様に心がけている。	男性職員がいるが、入浴や排泄の介助時に異性介助が問題となったことはない。利用者様のプライバシーへの配慮として、浴室やトイレの扉は2重構造となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけることはせず、選択肢を与え自身で決められるよう支援している。また、テレビ・新聞など好みのものがみられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで行動ができるよう努めている。また、場面によっては慌てさせずやり遂げられる様に寄り添うよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る利用者様には自身でもらい、出来ない方にもその日の服装など一緒に考え、介助が必要な時は手伝い、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生のもが苦手な方にはそうでないものを、マクドナルドが好きな方には時々テイクアウトをし提供、昨年から引き続き外出が叶わないため食には特に気を配っている。	3食手作りの食事を提供している。外出、外食を自粛しており、利用者の希望に沿ってハンバーガーや味噌カツ等のテイクアウトを利用することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を個々に合わせ、また状態に合わせて食べやすい形・大きさにして提供する。また、食事量が少ない方はエンシュアで補うが、プリンにして摂取しやすくし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行う。出来ない方には介助し、出来る方にも付き添い口腔内の清潔に努めている。また歯科医師・歯科衛生士などからの指導もしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを掴み時間ごとにトイレの声かけを行っている。またトイレでの排泄が少々困難な場合でも介助しトイレで排泄が出来るよう支援している。	おむつ対応を最小限に留め、トイレでの排泄を基本として支援している。自立歩行が困難な利用者は職員が介助して、また夜間は睡眠中の利用者を起こして、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄状況をチェックしている。個々に合わせた水分量・運動、食事のメニューにも心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の取り決めはあるが本人の状態や理解に合わせて無理な入浴は避けるようにしている。また、汚染があった場合等はその都度清潔に出来るよう支援している。	週に2回を基本に、入浴支援を行っている。拒否のある利用者にも、無理強いしないことを原則としている。入浴日をずらしたり毎日声掛けしたりして、利用者にとって納得した入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息がとれるようにしているが個々の体調に合わせて配慮している。利用者様の希望で眠剤を服用される方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護職員で行い薬の作用・副作用等他の職員に説明し、理解してもらい、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来そうな作業を見つけ利用者様とスタッフが一緒にし、出来る喜びを見つけ、役割をを果たしてもらえよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今昨年からは戸外へ出かけることは一切なく、また近隣の福祉施設でのイベントの開催もされなかったため、施設内でのみの活動となった。	新型コロナウイルスへの感染防止を最優先事項として考え、ほぼ2年間、企画外出等の外出支援を一切行っていない。「緊急事態宣言」や「蔓延防止の重点措置」が発令中は、ホーム建物内だけの支援となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さま本人が金銭を所持している方はいないが、所持していないことを不安に思う方もおられないため現在はしていないが、今後希望があれば対応する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お正月・ひな祭り・七夕・クリスマス等季節に合わせて玄関や居室の飾りつけを変えている。また、毎日快適な暮らしが出来るよう室内の温度や湿度にも気を配っている。	新型コロナウイルスへの感染防止の観点から、今年度は電話による聞き取り調査としたため、この項目のコメントはなし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビング・食堂・畳スペースがつながっており、広い空間で思い思いの場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は入所前に使用していた物を持ってきていただいている。本人が大切にしている物のある空間づくりに心がけている。	新型コロナウイルスへの感染防止の観点から、今年度は電話による聞き取り調査としたため、この項目のコメントはなし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体能力に応じ出来る事が出来なくなるような環境づくり、安全に生活できるよう支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102988		
法人名	有限会社 アヴェニール		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	岐阜県岐阜市河渡5丁目60番地		
自己評価作成日	令和3年12月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護職員が24時間在中しているため医療と切り離すことの出来ないインシュリン注射・透析通院・在宅酸素等を必要とする利用者様を積極的に受け入れている。また、ご家族・ご本人の希望に添える形でのターミナルケアにも積極的に取り組み職員全員で対応している。職員の離職が少なく開設当初からの人員が半数を占めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102988-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170102988-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年2月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを理解し、地域住民の方との交流の場に出掛ける等、この地で暮らし続けることを支援できるよう努めているが今年も昨年から引き続き地域住民との交流は出来ていない		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年近隣の社福法人の行事に参加し交流を深めたり、散歩や買い物に出掛ける利用者様もいたため地域住民と挨拶を交わしたり、自治会行事への参加もしていたが、今年も昨年から引き続き出来なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の代表が地元であるため地域の方々から様々な相談をされることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一昨年までは、外部評価への取り組み～結果報告を運営推進会議の場で行ってしたが、今年に入ってから運営推進会議が出来なかったため出来ず、今後再開ができた暁にはそうしていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前から相談事がある時には直接出向き市町村担当者と顔を合わせ相談にも乗ってもらっている。昨年からは電話やメールでのやり取りが多くなった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針で日々ケアに取り組んでいる。しかし必要な場合は家族と話し合い適切な手続きを経て身体拘束を行う。その後は定期的にあセスメントを行い解除に向けた話し合いをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部講師でカンファレンス時に「高齢者虐待防止法」の勉強会を開催し職員全員が理解を深め、注意しあえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は外部より講師を招き「権利擁護・成年後見制度」の勉強会を開催し職員全員が参加して理解し活用できるようにしていたが今年も開催できなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には十分に説明し理解していたいている。また法改正等で変更があった場合も都度説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを大切にし良い信頼関係が築けるよう努めている。意見・要望を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回開催されるカンファレンスには必ず代表者・管理者が参加し職員からの意見を聞く機会を設けている。しかし把握しきれない可能性もあるため、年に一度の個人面談で収集できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ほぼ毎日ホームに居て個々の職員の勤務状況を把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量を把握し希望の研修を受けられるよう努めている。また、ホーム内で勉強会を開催しケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前から代表者は他のホームの管理者等と交流を深めてきたが今年も出来ず、電話やメールでの交流のみとなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の希望を聞き、困っている事・不安に思っている事・要望を理解できるよう工夫し、本人が安心して生活出来るよう、また職員とのより良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事・要望を聞き、ホームとしてどのような対応が出来るのかをじっくり話し合い、何でも話が出来よう信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思い・状況を確認し信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側される側との意識を持たずお互いが共同しながら和やかで楽しく生活出来るよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が同じ思いで関われるよう、面会時に近況の報告をし、また、家族からの要望・気づきを聞き、良い関係が保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開設以来、ご家族・友人・知人の面会時にはゆっくりと過ごしていただける雰囲気づくりに心がけてきたが今年も叶わず、ご家族のみの短時間面会となってしまった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を職員が共有できるようにしており、心身の状態や気分に変化することがあるため注意深く見守るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで契約が終了しても、必要に応じて面会に出かけたりし場合によっては相談を受けることもある。以前には数か月後に再度入所に至った例もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけでなく表情や行動からも意思を読み取れるよう努め、より理解を深める為に家族からも情報を得るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等からいろいろな情報を集めアセスメントし本人の望む生活環境を理解し支援できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活のリズムを把握し、スタッフ間で情報を共有・連携し、利用者様の日常の過ごし方・心身の状態を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様主体の暮らしに反映したケアプランを立てている。プランの見直しは期間や身体状況に応じて作成している。また、毎月のカンファレンスで意見交換をしプランに反映出来る様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には一日の様子を記入し特記事項はその日のうちにスタッフに伝わるよう連絡ノートに記入し、必ず目を通し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様たちが安心して暮らし続けられるよう自治会・民生委員などと情報交換してきたが、今年も出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用以前よりのかかりつけ医での医療が受けられるようにしている。通院が不可能になった場合でも近医に訪問診療をいただける。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を24時間配置しているため、日常のかかわりの中でとらえた情報はすぐに看護職員に報告・相談ができる。訪問看護ステーションとの連携により日頃の健康管理を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法など情報を提供している。またホーム職員が定期的に見舞うようにし家族ともに連絡を取り合っている。協力医療機関での入院が多いため、病院職員との良い関係は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師とホーム職員が連携して安心して納得のできる最後を迎えられるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・緊急時対応マニュアルを整備している。また看護職員が24時間配置となっているため対応できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路・消火器の使い方などの確認は定期的に行っている。自然災害時等は自治会・消防団・近隣の大規模施設など協力関係もできている。またセコムによるホームセキュリティも設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の気持ちを大切にケアができるよう声掛けの仕方・声の大きさ・場面を見極め対応が出来る様に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押しつけることはせず、選択肢を与え自身で決められるよう支援している。また、テレビ・新聞など好みのものがみられるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースで行動ができるよう努めている。また、場面によっては慌てさせずやり遂げれる様に寄り添うよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る利用者様には自身でもらい、出来ない方にもその日の服装など一緒に考え、介助が必要な時は手伝い、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生のもが苦手な方にはそうでないものを、マクドナルドが好きの方には時々テイクアウトをし提供、昨年から引き続き外出が叶わないため食には特に気を配っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を個々に合わせ、また状態に合わせて食べやすい形・大きさにして提供する。また、食事量が少ない方はエンシュアで補うが、プリンにして摂取しやすくし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行う。出来ない方には介助し、出来る方にも付き添い口腔内の清潔に努めている。また歯科医師・歯科衛生士などからの指導もしてもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを掴み時間ごとにトイレの声かけを行っている。またトイレでの排泄が少々困難な場合でも介助しトイレで排泄が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄状況をチェックしている。個々に合わせた水分量・運動、食事のメニューにも心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の取り決めはあるが本人の状態や理解に合わせ無理な入浴は避けるようにしている。また、汚染があった場合等はその都度清潔に出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息がとれるようにしているが個々の体調に合わせて配慮している。利用者様の希望で眠剤を服用される方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護職員で行い薬の作用・副作用等他の職員に説明し、理解してもらい、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来そうな作業を見つけ利用者様とスタッフが一緒にし、出来る喜びを見つけ、役割を果たしてもらえよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今昨年からは戸外へ出かけることは一切なく、また近隣の福祉施設でのイベントの開催もされなかったため、施設内でのみの活動となった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さま本人が金銭を所持している方はいないが、所持していないことを不安に思う方もおられないため現在はしていないが、今後希望があれば対応する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お正月・ひな祭り・七夕・クリスマス等季節に合わせ玄関や居室の飾りつけを変えている。また、毎日快適な暮らしが出来るよう室内の温度や湿度にも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビング・食堂・畳スペースがつながっており、広い空間で思い思いの場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物は入所前に使用していた物を持ってきていただいている。本人が大切にしている物のある空間づくりに心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体能力に応じ出来る事が出来なくなるような環境づくり、安全に生活できるよう支援している。		